

…新春特別号…

# 連盟会報

発行日：2018(平成30年)1月15日

…◆第54号◆…(P-1)

発行：一般財団法人 日本抜刀道連盟

◆企画・構成・編集：〈広報部〉

…事務局… 〒130-0026

東京都墨田区両国 2-21-5 両国ダイコンプラザ802号

☎:03-3631-5851 FAX:03-3631-5852

## Happy New Year 2018

### ◆修錬と絆 … 絆と連帯◆

抜刀道修錬の心得は“錬磨”するものであって上達の妨げとなるのは『慢心と我執』である…。従って、私達は連盟綱領が示す通り…修錬を通じ「人としての道」を求め、厳しい“修錬”の中から《心・技・体》を養い自己の完成と、この道を「日本武道の原点」として、真摯に受け止め、本連盟が誇る日本武道の『正統抜刀道』として、さらに発展させつつ継承し日本の武道文化遺産として後世に残そうではありませんか…。



参議院議員  
連盟名誉会長  
岡田 広 先生



財団代表理事  
連盟会長 大江 正 男

本部役員一同

# 謹賀新年

皆々様のご健康とご多幸を  
心からお祈り申し上げます。



財団 理事  
連盟 副会長  
兼 広報部長  
中島 正 夫



財団 理事  
連盟 副会長  
兼 事務局長  
菅 野 茂



財団 評議員  
連盟 教務部長  
大塚 光 男



財団 評議員  
連盟 相談役  
中世古 勝 司



連盟 参与  
中北 祐 嗣



連盟 参与  
金子 寛



教務 次長  
遠藤 仁



教務 次長  
藤田 久 男



教務 部員  
境 泰 雅



財団 評議員  
連盟 会計



財団 監事  
連盟 監査



事務局員  
小林 克 巳



事務局員  
市角 壮 玄



大会 公認  
公認 指  
指 審 判  
導 員 団



大会 公認  
公認 安  
準 全 管  
備 理 者  
委 員

■ 会報54号は、連盟会員一人一人の“足跡と思い出”を残す『109頁から110頁』の“奮闘制作”の2頁構成です…。

広報活動は、連盟組織の“要”であり、連盟本部は“全支部…連盟会員分”を届けるので《配布の徹底》を願います。…◆広報 部長◆…

【心打つ！…言葉の行間】

◆慢心と我執◆

…実るほど

頭を垂れる 稲穂かな…



時の流れは実に早い…。平成も三十年の新春を迎え大江正男連盟会長から「抜刀道は錬磨するものであり上達の妨げとなるのは《慢心と我執》であるとの、尊い新年の言葉を戴いた。…」振り返ると…昨年は、政界の一部議員による、スキヤンダル外れた角界の混迷等々…。これらは武道界だけでなく全てが己の「自信が過信」になった事に気づかない「慢心と我執」による行動に起因している…。

思い起こすと私が少年の頃…今は亡きお袋は「実るほど頭を垂れる 稲穂かな」とよく言って聞かされたが…大江連盟会長が語る《慢心と我執》を戒める、この「言葉と行動」は、剣の道の哲理と同様に奥が深く、武道界だけでなく、私達が歩む人生に通じる「人の道と心の動き」の哲理を説いているのである…。

剣道の流派は、足利の末期から徳川の初期にかけては三百もあつたと伝えられている…。この時代に反町無格と言う武芸者がいて諸国を武者修行して回っていた…。ある時、山から出ようとしたが、大きな川を渡らなければ里に出られない…。悪い事にその川には橋がなく代わり一本の丸太が渡してあるだけだった…。この武芸者は、丸木橋を渡ろうと何回も試みたが、眼下みると川の流れが激しいうえに、かなりの高さもあつて怖くて渡れない。万が一に川に落ちたらまず命は助からないであろう…。真剣勝負で何度も生死のあいだを潜り抜けてきた武芸者であつたが…、剣以外の事はまだまだ臆病であつた。どうしたものかと思案していると、そこに一人の盲人が、杖を頼りにとほとほとやって来た…。

武芸者は息をつめて盲人の動作をみつめていた。すると盲人は杖の先でトントンと丸木橋を叩き、うんうんと確かめ、うなずいてから、とつとと渡って行った…。

その様子を見ていた武芸者は、ハッ！と気づいた…。自分はこの丸木橋に怖れをなして思案していた…。これこそ、剣の道で言う「四戒四病」すなわち《驚き・怖れ・疑い・惑い》の雑念に捉われていたのだと気づいたと言ふ…。

この目で激しい川の流れてをみて、怖れおののいていたのか？自分もあの盲人の様に、この目が見えないものと覚悟を決め、心機一転して《無心》で丸木橋を渡つたら無事に渡れた…。

そこで、この武芸者は悟りを開いて、その後「無限流」をのみ出したと伝えられている…。

私達、連盟会員は抜刀道修練を通じ、大江連盟会長が説かれる《慢心と我執》を少しでも排除した「人生道」を通じ、今年こそ、互いのこの手に「幸運」を掴もうではないか…。

…本部 広報部長…

■ 新しい年を迎え…、今年は抜刀道修練に於ける『慢心と我執』の排除を我が人生道の極意として心・技を極め、連盟会員互いに心に人生のロマンを持って心新たに、この手に「幸運を呼び込み掴む」心意気と力力で『修練と絆・絆と連帯』を念頭に…、抜刀道修練の素晴らしい年にしようではありませんか…。



■ 連盟会報も、前任者の広報部長から引き継ぎ…、この新年を迎え第54号の発刊となった…。発刊する会報は『組織の要』であり、我が連盟会員の貴重なく足跡と思い出を残しつつ、日本の武道文化遺産としての“正統抜刀道”として後世に残すべく、会員各位の修練の実態を通じ、国内・海外にまでも、連盟組織活動の実態を紹介する一翼を担っている…。

▼ 今日も老体を吹き飛ばし、徹夜の状態でもチボチボと会報づくりは続く…。何しろ後継者がいなく、一人で『企画・構成・編集』を行い発刊しているの、発刊までの隠された苦労は大変なものである…。前任者からの引き継ぎでは、1頁を完成させるまでには“誤字・脱字・1mm単位の編集”で、完成までには40枚以上のコピーの失敗が出ると聞かされていたが…、前任者の、広報部長が乗り越えた労には頭が下がる…。



副会長 兼 広報部長  
中島 正夫

▼ 前任者から引き継ぎ第54号まで《110頁》を書いて書きまくった、驚異的な発刊実績である…。これからも本部役員としての責務を果たし抜刀道で“心身”を鍛え職務を遂行し『連盟会報』を滞りなく会員諸氏のお手元に届けて行きたい…。

◆事務局 便り◆



副会長 兼 事務局局長  
菅野 茂

日頃は連盟の活動にご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。本年は、第27回全国大会と第3回東京大会。そして本部での高段者審査会が2回。また、5段以下審査会を4回実施いたします。皆さん万障お繰り合わせの上、積極的な参加協力をお願い致します。

① 3月17日(土曜) 高段者審査会。於・神奈川県立武道館。

② 5月20日(日曜) 前期5段以下審査会。於・県立武道館。

③ 7月22日(日曜) 前期5段以下審査会。於・東京武道館。

④ 4月連盟総会の「会場・日程」については現在、新橋学習センター側と事務局が鋭意調整中なれど、3月1日に抽選結果が発表されるので、具体的な日時については追って連絡する…。

◆広報 便り

【誰もが気づかない発想】 ただ単に活字を“見るのではなく”… 50cmほど寝て会報の1枚を眺めてほしい…。写真を挟んで活字を縦横に巧みに組み合わせ、絵画を眺める様な『絵心の発想』で一枚の作品として“構成・編集”がなされています。抜刀道を通じてご自分の人生記録をセロケースに入れて机の片隅に飾るもよし。名刺がわりに“COPY”して記念に配布するもよし。この様な“男のロマン”を勝手に抱き“連盟発展”の為、日々真夜中まで会報作りは続きます…。